

# 県議会報告

2016年10月

## 日本共産党 岡山県議会議員団

岡山市北区内山下2-4-6 岡山県議会内

TEL 086(226)7412  
FAX 086(231)2187森脇ひさき  
氏平みほ子  
すます伸子

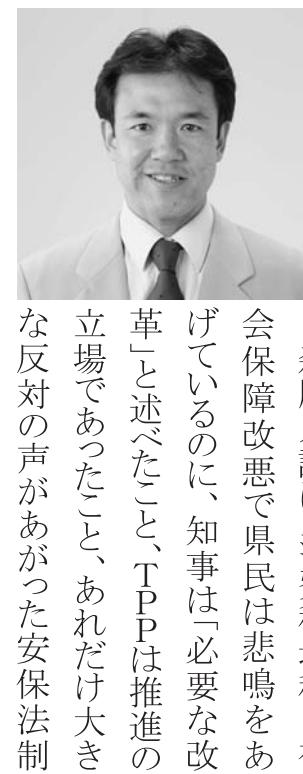
9月議会 県政に「福祉の心」を!

アベ暴走政治ノ一

9月29日、9月定例県議会が閉会しました。この議会は伊原木知事にとつて任期中最後の議会。日本共産党は森脇ひさき、氏平みほ子両県議が質問に立ちました。

**国の悪政に意見を言わなかっただ（森脇）**

――私が必要と思うことは言った（知事）



森脇県議は、消費税増税と社会保障改悪で県民は悲鳴をあげているのに、知事は「必要な改革」と述べたこと、TPPは推進の立場であつたこと、あれだけ大きな反対の声があがつた安保法制（戦争法）には「国が決める」と自らの意見は述べなかつたことなどをあげ、「県民の命と暮らしにかかる重大問題で意見を述べるのは大問題だ」と知事の政治姿勢をただしました。

知事は、国の交付税削減に対する意見を述べた事例を紹介し、「言わなければいけない」とには、自分

**子ども医療費助成年齢の拡大を（氏平）**

――財政が厳しい、優先順位が違う（知事）



氏平県議は、鳥取県では今年

4月から子ども医療費助成の対象を18歳までに拡大したことを見紹介。「伊原木知事は4年間一度も制度を拡充しなかつた」と指摘し年齢拡大を求めました。

**障害のある子どもは医療費無料に（氏平）**

――すでに一割負担に軽減している（知事）

氏平県議は、県の障害者医療費助成を「原則一割の応益負担」にしていることを批判。無料にするよう求めるとともに、せめて、障害のある子どもの医

療費は無料にするよう求めました。

障害のある方の医療費について知事は、「低所得の方には負担限度額をもうけている」とし、障害のある子どもについては「障害者医療費助成で一割負担に軽減されている」と述べ、改悪された応益負担を正当化しました。

**18歳までの無料にいくう必要か？（氏平）**

――無料化には1400万円（知事）

また氏平県議は、障害のある子どもについて18歳まで医療費を無料にした際の県予算の必要額を聞いていました。知事は、「千四百万円」と答弁しました。

障害は自己責任ではないのに、わずか千四百万円の予算も出さず、あくまでも応益負担を求めるという、知事の障害者福祉への認識そのものが間違っています。「福祉の心」が欠けていると言わなければなりません。

なりに意見を言つてきた。これからも私が必要だと思つたときには意見を言う」などと答弁。森脇県議は「私が指摘した問題は知事にとつて必要なかったという」とがよくわかつた」と述べました。

**意見を言うかどうかは、県民の苦しみや不安といった県民の思いでなく、知事自身の思いである」とが明らかになりました。**

**県民の生命と暮らしを最優先に（森脇）**

――教育再生と産業振興が不可欠（知事）

森脇県議は、「力をもつたところを支援し、その果実を県民に」としてきた知事の政治姿勢を、県民にまわる保証がない、失敗が明瞭なアベノミクスそのものだと批判。「県民の暮らしを直接応援する」政治への転換を求めました。

知事は、相変わらず「県民福祉の向上には、教育再生と産業振興が不可欠」と述べました。

# 教育

# 一人ひとりの子どもを大切に

「子どもを大切にする」 教育へ転換を（森脇）

——教育再生のため高い目標を掲げる（知事）



森脇県議は、「全国学力テストで10位以内、成果をあげた学校には奨励金、警察との連携強化など競争と管理の教育だった」と4年間を振り返りました。

知事は、「教育県岡山の復活をめざし、高い目標を掲げ、落ち着いた学習環境の確保や学力向上等に取り組んできた」と答弁しました。

正規教員を増員し、非正規比率下げよ（森脇）

——非正規比率上昇は悪だと思わない（知事）

## 介護・医療

# いのちと暮らしを最優先に

介護制度改悪に中止を求めよ（氏平）

——国の議論を注視する（知事）

氏平県議は、要介護1・2の認定を受けている方は全体の約4割にのぼり、介護保険料の負担をさせながら、多くの人に制度を利用させないというのは「国家的詐欺」と言わなければならぬと政府の介護保険改悪を批判。知事に、国に中止を求めるよう迫りました。

知事は、「制度の持続可能性を担保しなければならない。国の議論を注視する」との答弁にとどまりました。

特養入所は要介護3以上、低所得者の部屋代・食費の負担増、要支援は地域支援事業へ、利用料は2割へ——すでに大改悪された介護制度をさらに、要介護1・2の生活介護や、介護用具の貸与を自己負担にしようとしています。

地域事業で市町村格差がでないよう（氏平）

——多様なサービス充実につながる（部長）

また氏平県議は、新しく実施される地域支援事業について、市町村格差が生じないよう県として十分な支援をおこなうよう求めました。これに対し保健福祉部長は、「地域支援事業は、市町村において、要支援者等の多様なニーズを把握した上で、介護事業者による現在と同等の専門的



事務所びらきで訴える植本かんじさん（9月19日）

## 県民の願いに寄りそつ県政を

サービスに加え、既存事業者やNPO・ボランティアなど多様な担い手を活用し、多様なサービスを提供するものであり、地域の実情に応じたサービスの充実につながる」などと、大改悪をバラ色に描く答弁をしました。

国は事業所への報酬削減も検討しており、これまでのサービスが維持できるか心配する声が広がっています。そんな時、このような県の認識では不安は大きくなるばかりではないでしょうか。

民主県政をつくるみんなの会 事務所びらき

10月6日告示、23日投票で

岡山県知事選挙がたたかわれます。

安倍暴走政治にノーの声を上げるとともに、県民に寄りそつた県政への転換をはかる絶好のチャンスです。

日本共産党県議団も「みんなの会」や広範な県民のみなさんと力をあわせ、全力でがんばります。